

情報公開文

研究名 卵巣腫瘍茎捻転に対し保存的手術を施行した若年女性症例の臨床的検討

研究の目的・意義

卵巣腫瘍茎捻転という病気は子どもから高齢者まであらゆる年齢で発症する緊急の処置を要する疾患であり、状況によっては卵巣や卵管を摘出しなければならない状態になることがあります。

特に閉経まで時間のある女性においては、卵巣や卵管を摘出してしまうと今後の妊娠やホルモンバランスに影響が及ぶことが懸念されるため、核出術といって腫瘍だけを摘出し卵巣と卵管を温存する術式が望ましいと考えられます。

そこで卵巣腫瘍茎捻転の診断で緊急手術を施行し卵巣を温存した若年症例について検討を行い、当院での実施状況や卵巣や卵管を摘出するか温存するかを選択に影響を及ぼす要素について考えることを目的とした研究を行います。

研究の対象となる方と研究期間

2017年1月から2021年12月までに急性腹痛のため当院を受診し、卵巣腫瘍茎捻転の診断で温存手術を施行した40歳以下の方。

研究の実施体制

研究責任者 宇賀神智久

共同研究者 大槻健郎、小針諄也

研究に用いる試料、情報の種類

診療録に記録された診療情報を用いた非侵襲・非介入の研究です。診療録より年齢、発症から手術までの時間、初診時の血液生化学所見、術式、術中における肉眼的虚血所見の有無、病理学的診断、病理学的壊死の有無、術後合併症の有無などのデータを収集し、統計学的に解析を行います。また手術動画から卵巣や卵管を温存するか摘出するかを選択に影響を及ぼす所見がないか、検討を行います。

利益相反

本研究に関して利害関係にある企業はございません。

お問い合わせ先

この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合などは、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

仙台市立病院 産婦人科

研究責任者 宇賀神智久

共同研究者 大槻健郎、小針諄也

仙台市太白区あすと長町一丁目1番1号

電話：022-308-7111(代表)